

サケが大きくなるまで

・全文を概説する題目である。

・川で育つ

・何故、川で育つのか。

・外敵が少ない(いなづま)

← 食べ物も少ない

=

・川がぐらぐらになると

川を下り始める。

・10個ぐらぐらになつてから

海へ泳ぎ出す。

・大きく(70cm)なるのは海である。

・食べ物が多い

← 外敵(サメ、あざらし)も
多い

・どこで生まれ

・生まれた所は、海ではな(か)も(れ)

な(い)づ(ま)と(を)肺(ろ)一(てい)び(い)か。

・海で生まれたのではな(い)づ(ま)の

驚(おど)き。

← 海にすむ魚

秋になるころから、おとなの

サケは、たくさんあつまって、

たまごさうみに、海から川へ

やってくる。

・季節「秋」

そして、いきおいよく川を上り

ます。三メートルぐらいのたき

でものりこえて、川上へ川上へと

すすんでいきます。

・いきおいよく

・3メートルの滝でも乗り越(こ)え

・おとなのサケの生命力

・何のために川上へ行くのか。

やがて、水のきれいな川上に

たどりつく。サケは、おびれを

ふるわせて、すなや小石の

川でくをほります。そのあなが

いかに五センチメートルぐら

になると、そこへたくさんたき(ご)を

うんで、うめてしまいます。

・水のきれいな所に卵(たまご)をう

サケは、北の海にすむ大きな魚

です。あの七センチメートル

ほどもある魚は、どこで生まれ

どのようにして大きくなったの

でしょう。

・北の海にすむ

・普通(ふつう)は、北の海にいてるといふこと

・大きな魚

70cmの実感

← 生(な)まれた時の大きさ

・鰻ま 川底を50cmもほる。

おびれをふるわせるだけほる。

自分の体長ほども ほる。

・水ながされてる途中のくわんの様子

おびれてる

おとさけ // これぐらいの流

・不思議 卵をうめてしま

流が落ちて大丈夫なのか。

冬の間、たまごからさけの赤ちゃんが生まれます。大きさは二センチメートルぐらいです。はじめは、ちゅうど赤いぐみのようなものをおなかにつけていますが、やがて、それがなくなつて、三センチメートルぐらいの小魚になります。

・川口で一月いるのは何のためか。

↓後の段落に書いてある

・何故、冬の間にも生まれるのか。

・外敵が少なく

・赤いぐみのようなもの

・母魚からもらった栄養

以後は、自分一人で生きて行かなくてはならぬ

・本文中には記述されていない

『そのように振うか』

体がしっかりして、海の水になれてくると、いよいよ、広い海でのせいかつがはじまります。

・川口で一月いるのは

→ 体がしっかりする

→ 海の水に慣れる

海には、たくさん食べものがあります。それを食べて、ぐんぐん大きくなります。けれども、ヤメヤメアザらしなどに、たくさんのおなかが食べられてしまいます。

事実 海には食物が豊富

← ぐんぐん大きくなる

← たくさん仲間が食べられまう

← たくさん食べられて死んでしま

春になるころ、五センチメートルぐらいになったヤメの子どもたちは、海にむかって川を下りはじめます。また、力が弱いので、水にながされながら、いく日もいく日もかかって、川を下ります。

・おとさけは、何日かかるとのぼるのか

書いてある

生と死が待っている所 海

体がし、かりしてくと海での生活が
始まる。

期待と不安を持って海へ身り出す

ふじに生きのこって、大きくなつた
さけは、三年も四年も海を
およぎ回ります。
そして、たまごをうむとき
には、自分が生まれたもとの
川へ帰ってくるのです。

いつ どこで

何と
どうして
なぜ

秋 川底 卵

冬 生 2cm ↓ 3cm

春 川 川下り

川口 および

海 食べ

およぎ回り
帰って

なぜ そうするのか
なぜ そうしたのか
なぜ そうなったのか
その記が書かれていない文章である。

事実が順次記述されている。

その事実のおもしろさを説くべきか。

「さうする」と指導時間が短く
なる。

事柄のみをおたえらるのであれば。

5W when Who Where Why
1H How

サケが大きくなるまで

「サケは、北の海にすむ大きな魚です。

「あの七十センチメートルほどの魚は、どこで生まれ、どのようにして大きくなったのでしょうか。」

「秋になるころから、おとなのサケは、たくさんあつまって、たまごをうみに、海から川へやってきました。」

「そして、いきお、よく川を上ります。」

「三メートルぐらいのたきでもものりこえて、川上へ川上へとすすんでいきます。」

「サゲで、水のきれいな川上にたどりつくと、サケは、おびれをふるわせて、すなや小石の川ぞいをほります。」

「そのあながふかや五十センチメートルぐらいになると、そこへたくさんたまごをうんで、うめてしまいます。」

「冬の間、たまごからサケの赤ちゃんが生まれます。」

「大きさは二センチメートルぐらいです。」

「はじめは、ちやうど赤いぐみのみのようなものをおなかにつけていますが、サゲで、それがなくなると、三センチメートルぐらいの小魚になります。」

「春になるころ、五センチメートルぐらいになったサケの子どもたちは、海にむかって川を下りはじめます。」

「まだ、力が弱いので、水にながされながら、いく日もいく日もかかって、川を下ります。」

「海に出たサケの子どもたちは、一か月ぐらいの間、川の水と海の水がまじった川口のおよいでいます。」

「その間に、十センチメートルぐらいの大きさになります。」

体がしかりして、海の水になれてくると、広い海での
せいかつがはじまります。

“海には、たくさん食べものがあります。

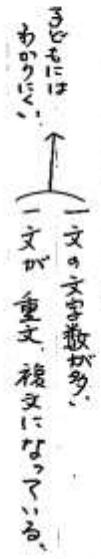
それを食べて、ぐんぐん大きくなります。

けれども、さめやあざらしなどに、たくさんのかまが食べられて
しまいます。

“ぶじに生きのこって大きくなったサケは、三年も四年も海を
およぎ回ります。

“そして、たまごをうむときには、自分が生まれたもの川へ
帰ってくるのです。

右のように書いてみると、文の数や少ない。



二二二 誰か なせ 何と どのように

光の海で 下り

1 光の海で 下り 光の海で 下り

2 光の海で 下り 光の海で 下り

3 光の海で 下り 光の海で 下り

4 光の海で 下り 光の海で 下り

5 光の海で 下り 光の海で 下り

6 光の海で 下り 光の海で 下り

7 光の海で 下り 光の海で 下り

8 光の海で 下り 光の海で 下り

9 光の海で 下り 光の海で 下り

10 光の海で 下り 光の海で 下り

11 光の海で 下り 光の海で 下り

12 光の海で 下り 光の海で 下り

13 光の海で 下り 光の海で 下り

14 光の海で 下り 光の海で 下り

15 光の海で 下り 光の海で 下り

16 光の海で 下り 光の海で 下り

17 光の海で 下り 光の海で 下り

18 光の海で 下り 光の海で 下り

19 光の海で 下り 光の海で 下り

20 光の海で 下り 光の海で 下り

中心

「さげが大きくなるまでの」の

過程

全文を七区画

①「さげは」にむかへて、おまじである。

秋

卵をうむために

秋 ② 川上へ

冬 川 3 2 橋を休めよう

冬

卵からうまれて

春 ④ 海 5

⑤ 海(川口) 10 橋を休めよう

春

川を下り

(海) ⑥ 海 7 川

川口での生活

海での生活

← 卵をうむために

右をただ繰り返している生命の

営み

← 卵の時に生まれたばかり、海へ泳ぎ出す

前——次に移動する前は、じっとする。

この静かな時間の後に、生命をかけて移動

する。そのダイナミズム。

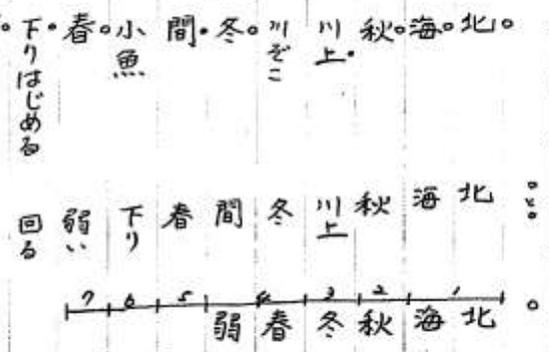
やがて、水のきれいな川
上にたどりつくと、さげ
は、おびれをふるわせて、
すなや小石の川をこそ
ほります。そのあながい
かさ五十センチメートル
ルぐらいになると、そこ
へたくさんたまごをう
んで、うめてしまします。
(900)

春になるころ、五センチメートルぐらいになつたさけの子どもたちは、海にむかつて川を下りはじめます。まだ力が弱いので、氷にながされながら、いく日もいく日もかかつて、川を下ります。

(80字)

海には、たくさんのお魚がいます。それを食べて、ぐんぐん大きくなります。けれども、あやあざらしなどに、たくさんのお魚が食べられてしまいます。

(94字)



弱い、
生きている
およぎ回る

1. 全文の概観

2. 秋

3. 冬

4. 春

5. 海

6. 形式。新出漢字。

7. 形式 北—東西南北

海—陸川池岸沼

秋—春夏秋冬

弱—強

教材について

秋、親のさげがりをかよって行くところから、子のイけが、海へ泳ぎ出し、また川に帰ってくるまでが書かれている。

①全文は20文である。

②この文は、東条 穂子の文章であり、

一文の長さが、長い。そのため、児童は、

何層もくり返して読まないと頭に入らない。

③事実そのまま記述する

理由、わけを書きつけている。この「わがままだらうた」

そのために

そのまゝ、事実を知る喜びが得られる。

④時間の順にそって、さげの成長の過程を

~~述べた~~ 季節ごとの 記述している。

季節にそって

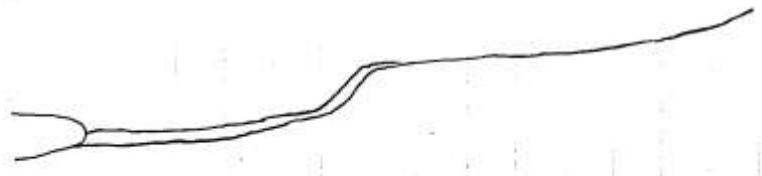
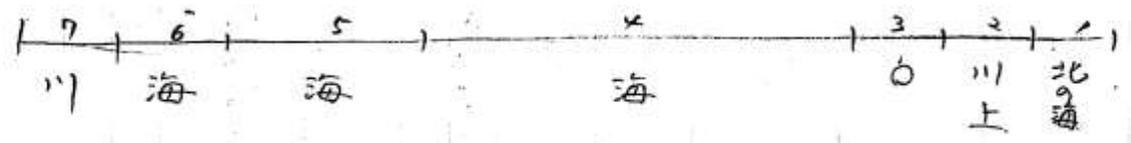
第一次 全文の概観

二、とく

第一問 丈人のまげは、どこにすんでいるか、

海へえいへい海
北の海

絵のなかの
海へえいへい
海へえいへい



第二回第一時

二、五、

・大入の上げは、ジニにすんでこそだ。
・そこには、何がたんとするものがある。

・おとんと大まかたを、そり、おとんと大まかにする。

命をかける、おとんと大まかに、仕事のこと

やってくる。何が来るか。

What's the matter?

川に落ちた。一休中、おとんと大まかにする。

おとんと大まかにする。おとんと大まかにする。おとんと大まかにする。

ついで、何をやる。今日は、おとんと大まかにする。

一休中。おとんと大まかにする。

二、五、

おとんと大まかにする (What's the matter?)

What's the matter? 前後の文脈から

What's the matter?

What's the matter? 前後の文脈から

What's the matter? 前後の文脈から

おとんと大まかにする。おとんと大まかにする。おとんと大まかにする。

おとんと大まかにする

What's the matter?

おとんと大まかにする

おとんと大まかにする。おとんと大まかにする。おとんと大まかにする。

命をかける。おとんと大まかにする。

おとんと大まかにする。

おとんと大まかにする。

おとんと大まかにする。おとんと大まかにする。おとんと大まかにする。

おとんと大まかにする。おとんと大まかにする。おとんと大まかにする。

おとんと大まかにする。

おとんと大まかにする。

おとんと大まかにする。

おとんと大まかにする。

おとんと大まかにする。



① やがて、水のきれいな川上にとどりつく

② ど、さけは、おびれをふるわせて、すなや

③ 小石の川をこまほります。

④ そのあながふかや五十センチメートルくらいになる

⑤ ど、そこへたぐさん

⑥ たまごをうんで

⑦ うめてしまいます。

第二次 第二時

一ノハ

○大人のまげがたまごそうめに川へやてくるのは、いつ。

○川ぞいでたまごは、いってゐるがたまごからまげの赤ちゃんがうまれぬのは、いつ？

男子を問ふ。

たまごの色
赤ちゃんのたまご

○そのまゝ、川上り川ぞいで、いってゐるのか？

六ノハ

二區分

・後ろはまげの子どもたちが、大まき苦勞して川を下って行くことが書いてある

・前は？

春になるころ、川を下りはじめる

五センチメートル
くらゐにならう

・三メートルの滝

・体力

・意、大人と同じくらゐ強いのか

・弱い

水に流され

いく日もいく日もかかると

○春の筆順指導を行つて、ついでに、
弱の筆順指導を行つて、ついでに、

春になるころ、五センチ

メートルぐらゐになつた

まげの子どもたちは、

海にむかつて川を下り

はじめます。

まだ、力が弱いので、

水にながされながら、

いく日もいく日もかかつて、

川を下ります。

No.

Date

第三次 第一時 漢字(表卷)

一、全表通記

二、

三、

THE UNIVERSITY OF TORONTO
DATE 1962

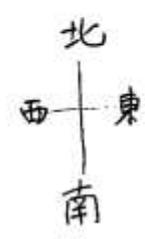
7 6 5 4 3 2 1
回 弱 下 春 間 終 上 秋 魚 北

第三頁 第二時 漢字(漢字)

一、全文通読

二、昨日は、新しく出てきた漢字を勉強した。

大人のまけはよくない。



池川海 (陸岸)

いづつ海のうらみへやまてくまらむとていふは

夏—春—冬—秋

小の間は

弱—強

No.

Date

第四 第一時 学習感想文を書く

一 全文通読

二 「^うけ^た大^きく^のま^まを」を^て吃^んで

免^れ強^した^こと

自^らと^免強^した^こと

こ^の作^りの^たま^まと^くだ^まい

第四次 第三時 読書指導 読み広げ、読み深めのため。
一、図書館へ行く。(調べておきましょう)

自然科学の本

図鑑

百科辞典

広く読めてほしいものとして取扱う。

事実を押しやる

事実とはどこに書かれているの、押える。

事実の奥にひそむ



を扱う。——「これは読まなければならない」

読者の感情を揺さぶる

・事実を物えるために、ビデオを導入しよう。——ビデオ等の導入は、第四段階と

あくまで、文章を読むことが主体。

文章を読む力と育成するが、ねえ。

事実がどこに書かれているの、押えるのが大切。

事実を押しやることより、文章と読む力を上げるのが、ねえ。

事実を単純化し、具体化する。

その上で、どこに書かれているの、考えさせる。

文章を読む力をつける。

上の年号を調べる

第一次 全文の概観

六、七

① 上げが大きくなるまで

すけて不思議な道だね

左の上げの大きさは？——大きい(2000年)

どこに住んでるの？

② 北の海

海↓広い海

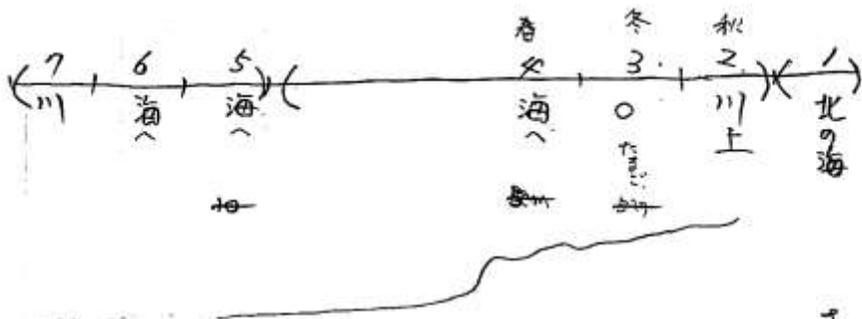
海↑狭

北の海↑広い

広い海にすんでるんだけれども 卵をうむ
こうにうむと どこにもおぼえてくるの？

写真を見ながら

さりの成長を調う



転読 (中村是安から)

振書の位置
— 正書か、本気でよむ。 — そうでないと用字のは、よくない。

細かく世切る。 — 説明文は、さらに細かく世切る。

二区分 — たどりつくまで

その後の仕事。

ヤがて → この中に「ヤ」と「の」の意味をこめさせる。

二、とく、前略 — 本時。

原書が「ヤ」で来たこと。

さけが大きくなるまで 2015.10.21

① さけは、北の海にすむ大きな魚 大きな魚

です。あの七十センチメートル 70cmは机の幅より10cm長い

ほどもある魚は、どこで生まれ (どこで……場所)

どのようにして大きくなったの (どのように……様子)

でしょう。 (この文章の問題)

② 秋になるころから、大人の さけは、たくさんあつまって、 海で集まる

たまごをうみに、海から川へ 場所:海

やってきます。そして、いきおい 場所:川

よく川を上ります。三メートル 70cmの体に3mの滝

ぐらいのたまごでものりこえて、 川上からの水の流れは?

川上へ川上へとすすんでいきます。

やがて、水のきれいな川上にとどり 場所:川上

つくと、さけは、おびれをふる

あせて、すなや小石の川底を (場所:川底)

砂や小石……きれいな底

ほります。ふかさが三十センチ 体長70cmで 深さ30cmのくぼみ。

メートルぐらいになると、そのくぼみ

のそでにたまごをたくさんうんで、

うめてしまいます。

たまご

川底より30cm下に卵がある。

死なない。砂や小石は

水を通す

③ 冬の間、たまごからうけの

赤ちゃんが生まれます。大きさは

赤ちゃん

三センチメートルぐらいです。

3

その時は、おなかに、赤いぐみの

みのような、えいようの入った

ふくろがついています。やがて、

親魚からもらったプレセント
成長のための栄養
何十個もない。食べきれない。

それがなくなって、四センチメートル

4

ぐらいの小魚になります。

小魚

④ 春になるころ、五センチ

5

メートルぐらいになった子供の

子どもたちは、海にむかって

子どもたち

川を下りはじめます。水に
ながされながら、いく日も
いく日もかかって、川を下って
きます。

⑤ 川を下ってまた川のそばまで

たちは、一か月ぐらの間、

川の水と海の水がまじった川口

場所：川口

の近くでくらしています。その

間に、ハセニチメートルぐら

8

の大きさになります。

⑥ 海の水になれて、体がしっかり

場所：海

してくると、いよいよ、広い海

でのべつこがはじまります。

海には、たくさんのおべつもの

があります。それを食べて、ぐんぐん大きくなります。けれども、
さめやめとよしなどに、たくさんのが
なまが食べられてしまいます。

⑦ ぶじに生まのこったけは、

三年も四年も海をおまき回り
まよ。

そして、大きくなって、たまご
さつむ時が近づくと、北の海から
自分が生まれたもの川へ
帰ってくるのです。

たまごさつむ時
たまごの川へ